

地震災害緊急対応マニュアル

●授業中に大きな地震が発生した場合

I. 地震発生時 まず身の安全をはかってください

担当教員の指示に従い、揺れが鎮静化するまで次の点に注意して冷静に行動してください

①教室から避難する場合

- ①ドア付近の人はドアを開け、出口を確保する
- ②窓ガラスの飛散を防ぐため、窓のカーテンを閉める
- ③衣類・持ち物などで頭を覆い、落下物(黒板・TVモニター・蛍光灯など)から身を守る
- ④窓際から離れ、机の下などにもぐり、体勢安定のため机の脚を押さえる

②実習室・部室などにいた場合は、次の事項に留意してください

- ①直ちに火の始末をし、電気器具の電源を切る。なお、揺れが大きく火の始末が不可能な時は、まず身の安全をはかる
- ②化学薬品の混触などにより火災が起こった場合は、揺れがおさまってから近くの消火器で初期消火活動をする
- ③火災で一番怖いのが煙です
ハンカチを口にあてるなどして煙を吸わないように注意をする

消火器の使用手順

1. 安全ピンを抜く
2. ホースを火元に向ける
3. レバーを強く握って放射

II. 地震鎮静後の対応

担当教員の指示、または避難放送や事務所からの連絡などにより静かに整然と避難してください
大きな地震は余震の可能性が高いため、十分に注意してください

①教室から避難する場合

※エレベーターは危険です(使用しないこと)

- ①出口に殺到しないで整然と避難する
- ②身体障害者や負傷者の避難をサポートする
- ③停電した場合、誘導灯を目印に避難する
- ④姿勢を低く保ち、避難には必ず階段を使用する

②特に実習室・部室などから避難する場合は、次の事項に留意してください

- ①ドアを開放したまま避難する
ただし、火災が発生し、消火不能の場合はドアを閉め避難する
- ②火災で一番怖いのが煙です
ハンカチを口にあてるなどして姿勢を低くし、煙を吸わないように注意をする
- ③隣室等の在室者の有無を確認する

③屋外に出て避難所に避難する時の注意

災害の規模と状況に応じて、指定の避難場所へ避難してください
なお、屋外では次の点に注意してください

- ①衣類・持ち物などで頭を覆い、落下物から身を守る
- ②窓ガラス・外壁・看板などの落下物に注意する
- ③地面の亀裂や陥没・隆起に注意する
- ④電柱・塀などの倒壊に注意する

●日頃の備え

突発的な地震災害等に備えるため、次の点に留意してください

- ①非常時に備え、学内の避難路・非常口(各階廊下に図示)・避難先を確認しておく
- ②火災の発生に備え、消火器の位置・使用法を確認しておく
- ③化学反応を起こす恐れのある化学薬品などについては、混触を起こさないよう棚を整理しておく
- ④ロッカー・戸棚などの上に物を置かない
- ⑤室内の整理・整頓を心掛け、不要となった紙類・ゴミ類は早めに処分しておく
- ⑥ドア周辺に避難の妨げになるような物を置かない
- ⑦応急手当の方法を身につけておく
- ⑧機会を見つけて、積極的に防災訓練・救急救護訓練等に参加する

●文化学園地震災害対策本部の設置

大きな地震災害が発生した場合は、直ちに地震災害対策本部をA館3階総務部に設置します
なお、A館3階総務部が使用不能な場合は、守衛所に設置します

総務部	03(3299)2112
	03(3299)2111
守衛所	03(3299)2068
防災センター	03(3299)2110

●文化学園地震災害対策本部の役割

- ①本部自衛消防組織及び教職員による被害情報の収集
- ②本学自衛消防組織による火災発生箇所への応援指示
- ③避難状況、負傷者等の確認
- ④健康管理センターまたは一時避難場所での医療活動の指示・連絡
- ⑤ラジオ等からの情報収集
- ⑥警察署・消防署との連絡
- ⑦食糧・水の確保
- ⑧その他

●災害による緊急時の伝言ダイヤル171



- 全国どこからでもメッセージを録音・再生可能
- 災害による緊急時の連絡や安否の確認がスピーディー
- 1メッセージあたり30秒まで録音可能
- 公衆電話はもちろんのことダイヤル回線でもOK
- 携帯電話からも利用可能